

第8章 結 核

平成19年4月に、「結核予防法」が「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」と言う。）」に統合され、「人権を尊重しつつ、総合的かつ計画的に施策を推進する。」旨の基本理念を念頭においた取り組みが求められている。

この理念のもと、結核患者発生動向調査、接触者健康診断による結核患者の早期発見、登録患者や家族への服薬指導を含む訪問指導、結核感染の拡大防止のための就業制限、入院勧告等を実施した。

なお、当保健所の結核の状況は、患者数及び登録数ともに年々減少しており、令和5年の結核新登録患者は31人、罹患率は人口10万人当たり8.0であった。

近年の傾向としては、結核患者に占める高齢者の割合が増加しており、新登録患者の約3分の2にのぼっているほか、若年層を中心に外国生まれの結核患者の割合の増加傾向が続いている。

このため、高齢者の結核の早期発見対策、外国出生者に対する結核対策を進めている。また、直接服薬確認療法（DOTS）の徹底により結核患者が確実に内服できるよう取り組んでいる。